

# 保育学生における職業志向性の検討

— 4年制大学の大学生との比較を通して —

岩崎 桂子・高橋淳一郎

## An Examination of Occupational Orientation in a Student for a Nursery Teacher

— Through a Comparison with a Student Four-year Baccal Aureate Programs —

*IWASAKI Keiko · TAKAHASHI Jyunichiro*

キーワード：保育職、職業観、専門職

### I. はじめに

近年、保育の在り方、保護者の職業も様々になり、保育者の職務内容も増え日々の業務も多忙を極めている。この状況の中、保育者を目指す学生は多く、毎年何人もの学生が保育士資格を取得している。保育を志す学生のおほとんどが、「自分が保育所にいるときの先生にあこがれて保育者を目指す」、「子どもが好きだから」という理由で保育者養成校に入学してくる。しかし、保育者の仕事は子どもと遊ぶだけではなく、保育環境の整備として掃除や遊具の点検、壁面の製作、保護者対応と子どもに関わる以外の様々な仕事内容がある。また、遊びにしても保育者は子どもの発達や成長を見据えて目標をたて、保育を進めていく。保育者の行動・言動・関わりには意味と目的が存在していることを授業を通して学んでいく。近年の保育職とは、少子化、核家族化、地域コミュニティの崩壊などを背景として、子どもだけではなく家族の支援者として、その社会的役割が大きくなってきている。その他には保育職には、地域の子育て支援として保育園等の児童福祉施設、幼稚園などが存在し家庭や地域社会との連携を進めていくことが期待されている。そのため、教育・福祉領域の職種にあって高い専門性と職業観が求められる分野である。しかしその中で、保育に対する不

安や理想とのギャップに悩む学生は少なくない。保育者養成校で幼稚園教諭・保育士の資格を取得するには、実習が必要不可欠である。岩崎（2009）<sup>1)</sup>の先行研究では保育実習・教育実習の不安が、その後の学習に影響があり、学生生活に対する勤勉な態度や意欲、充実したと感じられる学生生活など、積極的な姿勢が実習に対するベースとなって影響を与えていることを明らかにした。ただし、実習生という立場で現場を経験した際に学生から聞かれる言葉は、「園の先生が子どもを怒鳴っていた」「先生に笑顔がない」などマイナスな意見が見られることも少なくない。この様な経験を乗り越えて、職業としても保育者を理解することはとても困難なことではないだろうか。

本校では、2年間かけて就職指導を行っているが、実習を終えたばかりの学生は、保育職に対する意欲を減少させてしまうケースが多くある。就職希望先に保育所以外の福祉施設を希望したり、一般企業を希望する学生も出てくる。しかし、本校での就職先は保育所やその他の福祉施設が圧倒的に多く、一般企業に対する就職活動を意識し活動を行うには遅れを取っている。就職活動の開始について、入学後に猶予や職業選択の時間を持つ4年制大学の大学生とは少なからず就職・職業意識に違いは出てくる。保育者養成校の学生は、保育職という特定の職業を念頭に置き入学し、授業を受けている。これらのことから、一定の職業観・意欲を持って入学しているといえるだろう。

しかし、保育職への希望を抱いて入学し学習してきた学生でも、採用試験・給料面での不満・雇用形態など現実的な問題に直面する。また、実習やボランティアなどを通して子どもとの関わり以上に保護者・職員間の関わりに大きな不安を持っている。2年間という短い期間で、保育者という専門職を身につけるだけでなく、社会人としてのルールや心構えを身につけていかなければならない。

現在、養成校のカリキュラムは、非常に過密である。従来の免許・資格の取得のための科目に加え、「家族援助論」等の新設科目や実習の充実化等によって専門職のレディネスを育てている。養成校での2年間における授業や実習、その他の活動を通じて保育職というものを肌で感じ、自ら現場を体験しながら学習している。卒業時には個々の学生なりの保育職への理解を得ているのではないかと考えられる。

今回、調査対象となる2年生はほとんどの学生が福祉施設への就職を考えている。そこで、そもそも保育職を目指す学生は「保育」という職業をどのように捉えているのか、さらには彼らが全般的にどのような特性を持ち合わせているかを考えることは、就職指導はもちろん日常の勉強や実習指導においても重要な視点である。そこで、保育者に憧れて、2年間で資格取得を目指している学生と時間を掛けて職業選択を行う4年制大学の大学生との意識の差を研究することは、同じ2年生

という学年を指導する上で就職指導に大きく反映されるのではないだろうか。

## II. 方法

(1) 被験者 埼玉県内の保育専門学校2年生23名(男子3名、女子20名)および大分県内の4年制大学社会科学系学部の2年生31名(男子22名、女子9名)、合計54名(男子25名、女子29名)。

(2) 質問紙 職業レディネス・テスト(日本労働研究機構, 1988)を用いた。時期は平成20年12月頃である。同テストはA～C検査の3側面から、被験者の職業に対する意識などを測るものである。A検査は54項目の職業内容に関する質問に対して「やりたい」～「やりたくない」の3件法で回答を求め、被験者の職業興味を測定する。B検査は日常の生活行動や意識について記述した18項目について、それぞれの項目に用意された3つの選択肢から被験者の行動や意識に最も近いものと最も遠いものを1つずつ選択させることによって、基礎的志向性を測定する。C検査はA検査と同様の質問項目について、「自信がある」～「自信がない」の3件法で回答を求め、被験者の職務遂行の自信度を測定するものである。なお、A検査およびC検査の職業領域とその内容は以下のTable 1に示す通りである。

今回専門学校の2年生と4年制大学の2年生で

Table 1. A・C検査の職業領域とその内容

職業領域	職 業 名	
現実的職業領域 (R)	自動車整備工	漁師
	インテリアデザイナー	トラック運転手など
研究的職業領域 (I)	学芸員	化学試験分析員
	研究者	航空機技術者など
社会的職業領域 (S)	保育士	看護師
	販売員	レジ係など
慣習的職業領域 (C)	一般事務員	行政書士など
	コンピュータ・プログラマー	
企業的職業領域 (E)	営業	放送ディレクター
	新聞記者	会社社長など
芸術的職業領域 (A)	デザイナー	アナウンサー
	作家	俳優など

調査を行ったが、被験者の年齢的にも同時期であることや意識の差を明らかにするためである。

(3) 分析方法 それぞれの学校において被験者から得られた回答について、保育学生と4年制大学の大学生との差を明らかにするため、A～C検査の各因子についてt検定をおこなった。

### Ⅲ. 結果

職業興味を測定するA検査について、保育学生と4年制大学の大学生を比較した結果はTable 2に示す通りである。研究的職業領域では $t = -2.05$  ( $p < .05$ )と有意差が認められ、4年制大学の大学生の方がこの領域における興味が平均して高いことが明らかになった。同様に企業的職業領域でも $t = -4.97$  ( $p < .01$ )と有意差が見られ、こちらも4年制大学の大学生の方が平均してこの領域における興味が高いことが明らかになった。その他の4領域については有意差が認められず、保

育学生も4年制大学の大学生も各領域への興味に大きな差がないことが明らかになった。

次に、職務遂行の自信度を示すC検査について、保育学生と4年制大学の大学生を比較した結果はTable 3に示す通りである。ここではA検査と同様に企業的職業領域について $t = -2.31$  ( $p < .05$ )と有意差が認められ、この領域における自信度が4年制大学の大学生の方が高いこと、さらに研究的職業領域においては $t = -1.84$  ( $p < .10$ )と4年制大学の大学生の方が高い傾向が見られた。また、その他の4領域についてはA検査と同様に保育学生と4年制大学の大学生との間に有意差が見られず、職務遂行の自信度という側面についても大きな差がないことが明らかになった。

職業に関する基礎的志向性を測定するB検査について、保育学生と4年制大学の大学生を比較した結果はTable 4の通りである。データや文字などの処理にかかわる仕事への志向性を示すD志向については $t = -4.00$  ( $p < .01$ )と4年制大学

Table 2. 職業領域への興味における一般大学生と保育学生との比較

職業領域	保育学生 (SD)	大学生 (SD)	t 値
現実的 (R)	6.78 (4.34)	8.32 (4.59)	-1.26
研究的 (I)	3.52 (4.47)	6.35 (5.67)	-2.05*
社会的 (S)	8.43 (3.96)	9.61 (4.09)	-1.07
慣習的 (C)	6.26 (5.25)	6.00 (4.20)	0.20
企業的 (E)	5.52 (4.49)	12.03 (5.10)	-4.97**
芸術的 (A)	8.17 (5.32)	9.26 (5.34)	-0.74

Table 3. 職業領域への自信における一般大学生と保育学生との比較

職業領域	保育学生 (SD)	大学生 (SD)	t 値
現実的 (R)	7.57 (4.83)	8.39 (4.23)	-0.65
研究的 (I)	2.96 (3.56)	5.00 (4.58)	-1.84 <sup>+</sup>
社会的 (S)	10.04 (3.94)	10.13 (4.30)	-0.08
慣習的 (C)	7.22 (5.36)	8.16 (5.69)	-0.62
企業的 (E)	5.70 (5.24)	9.23 (5.97)	-2.31*
芸術的 (A)	6.91 (4.89)	6.35 (4.00)	0.45

Table 4. 職業の基礎的志向における一般大学生と保育学生との比較

基礎的思考	保育学生 (SD)	大学生 (SD)	t 値
対 情報 (D志向)	13.22 (4.05)	17.58 (3.85)	-4.00**
対 人 (P志向)	25.83 (4.47)	20.81 (4.74)	3.98**
対 物 (T志向)	14.96 (4.10)	15.68 (4.06)	-0.64

の大学生の方が高いことが明らかになった。しかし、人に対して行なう仕事を主とするP志向においては  $t = 3.98$  ( $p < .01$ ) と保育学生の方が高いことがわかった。物の取り扱いの仕事の主とするT志向については有意差が見られなかった。

#### IV. 考察

本研究では保育者を目指す学生における職業志向性について、4年制大学の大学生と比較することによって検討することを目的に分析を進めた。職業興味や職務遂行への自信という観点からは、研究的領域といった分析的な職務内容であったり、企業的領域といった営業やチームリーダー的な存在となり得るような職務に関しては4年制大学の大学生の方が高い数値を示した。これらについてはあらかじめ予測された通りで、保育者という主として子どもに関わる仕事を志す学生にとっては縁遠い職務内容であることから保育学生が興味関心を示さないのであろう。もちろん、保育者の職務としても経験を積むなかで学年あるいは園全体のリーダー的な仕事を任されることもある。しかしながら、保育者を目指す学生の多くは子どもが好きで、子どもを見守る仕事がしたいわけであって自ら進んでリーダーや主任になりたいから保育者として働きたいわけではない。むしろ、4年制大学の大学生の方が将来の就職を考えたときに営業職や研究開発、さらには実力をつけてチームリーダーに、という夢を想像しやすいことは容易に推測できよう。

B検査の結果を見たときに、保育学生は対人的な仕事への志向性(P志向)が高く、逆に4年制大学の大学生はデータや文字などの処理にかかわる仕事への志向性(D志向)が高いという結果であった。保育者の職務内容は、まさに人と関わる仕事である。その点でP志向が高いのは非常に納得できる結果である。4年制大学の大学生の場合は、被験者が2年生ということもあり自分の将来像について未だあいまいな点が否めない。このことは逆に幅広く自分の将来を想像できるという

ことにもつながる可能性がある。つまり、数字や文字と向かい合っている自分はもちろん、人に向かい合っている自分、人を援助している自分、さらにはものづくりに励んでいる自分など、さまざまな自分が4年制大学の大学生には想像できるのだろう。その反面、保育者を志す学生はすでに自分の将来像をある一つの形で固定できているがために、データと向き合う自分の姿は想像しにくいらしく、人と向かい合っている自分は容易に想像できるに違いない。このB検査の結果は、保育学生が「保育士を目指す」という明確な将来像を自分の中に設定できていることを色濃く反映したものと考えられる。では、ものづくり、つまりT志向について有意差が現れなかったのはなぜだろうか。4年制大学の大学生が、2年生という現状で幅広く自分の将来像を想像できてしまうのは上で述べたとおりである。保育学生の場合、保育者を目指す以上は自らが行なう壁面制作や子どもたちに工作などを教えることなど、いわゆるものづくりに関連する職務も発生する。しかもそれを知っていて、もしくは得意だからという理由で保育者を志す者もないとは言えないだろう。これら、それぞれの学生の特徴から、大きな差が現れにくかったと考えられる。

しかし、ここで非常に不思議な現象が出現しているのである。それは保育学生が4年制大学の大学生に比べてP志向が高いにも関わらず、職業興味および自信という面では人に奉仕する社会的職業領域(S領域)において両者に有意差が認められなかったということである。保育者は児童福祉の大きな一翼を担う、まさに「人への奉仕」の仕事である。単純に考えれば保育学生は興味も自信もS領域が高くなるはずであろう。にも関わらず4年制大学の大学生と差が見られなかったことは非常に興味深い点である。ここで考えられる一つの要因としては、今回使用した質問紙ではS領域に含まれる職業内容は必ずしも保育者に限ったものではないばかりか、福祉に限ったものでもない。Table 1にもあるように、販売員やレジ係などもこの領域に含まれるのである。おそらく保



育学生にとって、これら保育専門職ではない人と関わる仕事には大きな興味関心を引かれないのであろう。もう一つの要因としては、保育学生にとって興味関心があり自信があるのは子どもと関わることであり、販売員やレジ係はもちろん、人に奉仕する専門職であっても主として大人を相手とする可能性の高い看護師なども関心を向けられず、さらには大きな自信も持てないのではないかと考えられよう。この点は、保育士を志す学生にとって大きな弱点となりうるのではないだろうか。すなわち、保育者といっても子どもばかりを相手にしていればいいのではなく、保護者対応も重要な職務となる。改訂保育所保育指針(2008)<sup>2)</sup>でも、保育所の役割として「保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援を行う」、「子どもの保護者に対する保育に関する指導を行う」と明記されていることを考えると、保育者は子どもだけでなく大人との対人関係も円滑にできなくてはならないのである。現在、保育所に通う子どもの保護者にも様々なタイプがあり、保護者の仕事内容もさまざまである。こういった中で、世間を賑わす「モンスターペアレント」と呼ばれる保護者がいることも事実である。そして、保育者にとって対応が難しいのも保護者との関わりである。学生は保育所実習を通して子どもとの関わりを学ぶ機会はあるが、保護者との関わりは学生時代はほとんどない。しかし、現役の保育者から保護者対応の難しさを聞くことで、人との関わりに自信が持ちづらいのではないだろうか。被験者である学生は、自分で子育てをしながら働く経験もなく、保護者の気持ちに寄り添うことができるかという不安があるのだろう。

保育者養成校は、短大や専門学校の場合2年という短い期間で保育者資格を取得できる。大学全入時代と言われる現代にも関わらず、このような学校を進学先として選択するのは保育者として働くという明確な意識が入学当時からあるのではないかと理解できる。しかし、今回の分析から保育者が広い意味での対人援助と理解をしていない可能性が示唆された。そのため、専門職

としての知識・技術だけではなく、職員・保護者とのコミュニケーション能力を身につけていく必要がある。本校の教育目標である挨拶や明るい笑顔、素直な姿勢とともに保育者としての心構えを指導することが重要であらう。

#### 引用文献

- 1) 岩崎桂子「保育実習に関する不安調査からの一考察」『小池学園研究紀要』第2号、2009年、P.1
- 2) 厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館、2008年

#### 参考文献

- 1) 日本労働研究機構「新版職業レディネス・テスト手引き」『社団法人雇用問題研究会』1988年
- 2) 武衛孝雄「職業的発達と職業観」『島根女子短期大学紀要』第11号、1973年
- 3) 市村洋子「青年期の職業観の発達」『青年心理学研究』第5号、1993年
- 4) 八並光俊・後藤秀太郎「職業観形成における学級活動の影響分析」『日本進路指導学会研究紀要』第17巻2号、1997年
- 5) 佐藤典子「音楽大学への進学理由の認知と進学後の適応について」『教育心理学研究』第49巻、2001年
- 6) 安達智子「大学生の進路発達過程—社会・認知的進路理論からの検討—」『教育心理学研究』第49巻、2001年
- 7) 栗山直子・上市秀雄・斎藤貴浩・楠見孝「大学進学における進路決定方略を支える多重制約充足と類推」『教育心理学研究』第49巻、2001年
- 8) 松永しのぶ・坪井寿子・田中奈緒子・伊藤嘉奈子「保育実習が学生の子ども観、保育観に及ぼす影響」『鎌倉女子大学紀要』第9号、2002年

- 9) 亀井美弥子「職場参加におけるアイデンティティ変容と学びの組織化の関係：新人の観点から見た学びの手がかりをめぐって」『発達心理学研究』第17巻第1号、2006年
- 10) 森田慎一郎「大学生における職業の専門性への志向：尺度の作成と医学部進学予定者の職業決定への影響の検討」『発達心理学研究』第17巻第3号、2006年
- 11) 西山修・富田昌平・田爪宏二「保育者養成校に通う学生のアイデンティティと職業認知の構造」『発達心理学研究』第18巻第3号、2007年
- 12) 萩原俊彦・櫻井茂男「やりたいこと探しの動機における自己決定性の検討—進路不決断に及ぼす影響の観点から—」『教育心理学研究』第56巻、2008年

( 東萌保育専門学校専任教員                      岩崎 桂子 )  
日本文理大学助教                                      高橋淳一郎 )